（定價金二錢）　明治二十二年十月四日　（本號六面）　（郵信省認可）

時事新報

時事新報は一年三百六十五日一日も休刊無し

第二千四百三十二號　金曜日
明治廿二年十月四日　（癸丑）
舊暦巳丑九月十日
日出午前五時三十九分　入午後五時二十分
月出午後二時四十四分　月入午後
備考午前　備考午後零時十四分
（西暦一千八百八十九年）

時事新報定價

時事新報へ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價郵送料廣告料ハ左ノ如シ

一枚二錢〇一箇年前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓

〇時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ送付スルモノニ限リ右定價ノ外ニ一箇月十五錢ノ郵送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

一行五號活字廿四字詰	一日限	二日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十二錢	十一錢	十錢五厘

月曜日幷ニ大祭祝日の翌日等他新聞紙の休刊日に限り時事新報配達の求めに應ず此場合ハ新報代價一箇月前金八錢にして地方に郵送する分は此外に貼用する郵便印紙の代價を申受く可し

時事新報

信用の虚用

商工取引一切の事務に信用の大切なるハとは今更申すに及ばざれども凡俗の常情動もすれば其信用を廣げ過ぎて自然不手廻りの關係を生じ借上に執着上に言行往々喰ひ違ふて所謂信用虚用の實を示すは世界各國人共に有り勝ちの事態なれども爰に感心なるは英國人ハして商業上ハ信用を重んずるは殆んど先天の性質とも云ふべく商賣取引の初めには身元を探り約定を密ハし習慣通りハ取り質して其合格不合格を判定する等兎角一徹頑固ハして世辭もなければ愛嬌もなく俗に云ふ不で鼻を括ったるやうなれども當初石橋を敲て渡るの主義に由るが故に中道危險の心配なく取引の次第ハ密なるに隨ひ商業ますく堅固ハして信用ますく厚きを加へ商情長く温厚なるの趣きあり現に在歐洲日本商の實驗に於ても浮かと獨逸人あゞの爲替手形を割引すれば他日取立上に苦情を生じて甚だ迷惑する等の事情あれども英國人の手形には先づ以て此邊の心配なく安んじて之を取扱ふみとを得るが故に割引歩合に小差ありても英國人と取引する方、確に堅固なりと云へり又日本の諸商館にて或る外國製造元に向ひ其製造品のソール　ユニフエント即ち一手專賣を引受けんとする等の相談を爲すに當り例へば佛國製造元の如き右日本商館が從來名聞ある者ならんには直に其特約を結ぶとあれども英國の信用ある製造元にては先づ其日本商館の性質を吟味し次ぎに其相談を代理する人物の權限を突き留め其委任狀を調査して始めて談判に取り掛るやうの始末にして從來日本商館ハては此邊の規定もあかりしが故ハ海外支店を代理する人も或ハ其委任狀を所持せず或ハ其權限を定めずして相談最中先方の意を滿たすと能はず爲めに談判不調と爲りたるの例も少なからず誠に不愛相なるが如くなれども人を見て法を變ぜざるハ即ち堅固なる英國人の見識、永遠の取引を目當てとして申せば其初に愛嬌なきハ其交情の終りに至りて冷熱の變を生せざる所以にして彼の英國商人の如き當今の世界に在りあがら調り一諾千金の古俠風を存するものなりと云ふて可ならん今や我が日本國にては商業次第ハ增長して外國諸商人との取引も亦ますく繁盛するの時運ハ向ひ商人信用の一大義ハ大に此時に關せざる可らざる筈なれども近來商工諸會社の流行あるに就き其中實着ある人物が實着なる目的を以て着手する者なきに非ざれども或ハ浮薄なる投機心に出で間接直接政府の利益應護を仰がんとする者も少なからざるが故ハ社長頭取取締役等を撰擧するに先づ信用ハ近緣ある者若くハ時めく利口紳商、凡そ此流の人物ハ所謂ハやり待者にして處々方々ハ手を引かれ世に云ふ引張凧の境遇に在りて引かるゝがまゝハ手を出し一人ハして十數社に加はり社中重要の位地に置かれるれども限りあるの人力を以て限りなきの事務に當ると能はざるが故ハ自然不手廻り勝ちハして其職務を果すと能はざるものありと云ふ或ハ射利に忙はしくして小さき資本を大きく廻し縱橫無盡に遣り繰りして一時を彌縫するが故に堅固持久を要す可き會社の株を恰も投機の種として發起人先づ目かから賣り逃ぐるものあり其だしきハ株券拂込の期限に迫りて種々の苦情不都合を生ずるものさへありと云ふ斯くて彼の紳商輩ハ身に餘る信用を虚用して身に餘る業務に關係し其身に附着する奇異毒氣を到る處ハ會社を腐らし他の正業者を蠹害するハ勿論、一朝手計不如意に遭り繰り窮段に窮する時ハ其數會社に關係して重要の位地を占むるの故を以て一人の失敗忽ち數會社の信用を傷け暴響の及ぶ所、商工業社會の發達を害するの恐れなしとも云ふ可らず抑も彼の北米合衆國の如き企業繁忙の國ハして商工家の兼業最も多く信用ハ廣が丈け取り廣げて危險の踏むの場合も少なからず米國の事情に通ずる英國人などハ彼等が實際の資本に比して遣り繰りの頻繁なるに驚き内部の切迫を押し包みて其表面を飾るの厚かましきに呆るゝ程なれども此米國企業家が其名を以て重要の位地を占むるものハ多くも二三の會社にして目下日本の紳商輩が一身十數社の重任に當るが如き奇觀ハ可しとも思はれず蓋し我が日本に於ては商工事業創造ハして實際其事に鍛練なる人物少なく且つ又社會の事情に於て利口紳商の獨り便利なる都合等も多きが故に右の奇觀を呈したる次第ならんと雖ども一人の責任と信用とを數社に分ち多くの安危を一人に繫ぐハ所謂信用の虚用にして一朝其信用を損するとあれば之れに關係ある十數社ハ爲めに其安固を害するの姿にして我が商工業の安全發達を保つの道に非ざるが故に我輩ハ今日商工業發達の時運ハ當り官民其向きの人々が英國實業家などの事跡を鑑みて此邊に警戒する所あらんと偏に希望ハ堪へざるなり

官報

〇大藏省令第十二號

北海道地租納期左ノ通改定ス

明治廿二年十月三日

北海道地租納期

第一期	既年七月一日ヨリ同八月三十一日限	宅地及雜地	五分
第二期	同十一月三十日限	宅地及雜地	五分
第三期	翌年一月十日ヨリ同二月末日限	田畑鑛泉地池沼及山林原野	五分
第四期	翌年四月一日ヨリ同五月三十一日限	田畑鑛泉地池沼及山林原野	五分

大藏大臣伯爵松方正義

雜報

〇百萬の寡婦　最近の統計に從へば英國にては女子の數、男子の數より多きハと凡そ百萬人ハして是等ハ殆んど皆寡婦なるが如し是ハ實ハ驚くべき事實なるに似たれども其理由なきにあらず即ち英國にて女子の數、男子に超過する原因を擧ぐれば男兒ハ女兒よりも死亡し易きと、活潑なる男子の多數ハ自分等の身代を作らんが爲め姉妹を故郷に遺して外國に赴くと又男子ハ危險なる性質の職業を取るが故に死亡するみと多きが爲なり實際統計表を見れば英國ハ生るゝ男兒の數ハ女兒よりも多くして男兒十萬四千九百十一人に對する女兒十萬人の割合なれども十年を經過すれば男兒ハ大に減じ女兒十萬人ハ對して男兒九萬四千九百人となり其後年月を經過するに從ふて男ハ次第ハ減少すべし然るに寡婦の多きハ如何なる故なるか印度の如きハ寡婦の姫を結ぶなきを以て其數の多きも敢て怪むに足らざれども英國ハては寡婦も再び結婚するを得るのみならず實際婚姻を結びたるものあり左れば其數の多き原因ハ何れにあるやと尋ぬれば英國には老婦に婚する壯年者よりも少婦に婚する老人の多きが爲めなりと說明すべし然るに青年男子の過半ハ資産に乏しき頃結婚するみとを嫌ひ獨身の自由を樂みて妻を迎ふるの必要を見出すまで成る可く結婚を避くるが故に是等の人々が妻を娶るハ中年以上にして通常四十歳の男子が二十五歳の婦人と婚姻する割合あり今人間の壽命を平均六十歳とし二十五歳の婦人が四十五歳の男子に婚するとすれば男子の死去する時其妻ハ丁度四十歳にして尚ハ二十年間存命すべければ寡婦の多きも當然あるべし古昔聰明なる人民ハ四十歳位の婦人を以て最良の妻とおすべしと主張し故英國大宰相ピーコンスフヰールド侯、サヨーウエリオット氏の如きハ其例を示したれども一般の人々ハ老婦を娶るを好まず近來壯年者ハ自分の妻に馬車を供ふるを得るの身分となる迄結婚せざるが故に自然と寡婦の數を增ずる至るなり若し富家の女子が婚嫁したる上にて自宅にありし時の如き愉快と贅澤を盡さんと欲せば世故に慣れたる中年以上の男子と結婚すべし其代り他日寡婦の身となる覺悟あかる可らず若し又身を終ふるまで相提携すべき夫を持たんと欲せば壯年者に婚すべし其代り萬事夫の世話をおさゝるを得ず何れが最も少女に幸福を與ふるやハ少女自身に判斷すべし云々と近着の英字新聞に見ゆ

〇武官発補　第三師團監督部計算課長三等監督片山中行氏ハ本職を免じて近衛監督部計算課長兼陣營課長に第四師團監督部計算課長三等監督甲斐敬直氏ハ本職を免じて第三師團監督部陣營課長ハ三等監督嶋田恒榮氏ハ本職を免じて第四師團監督部陣營課長に何れも此程補せられ給ふるよし

〇横須賀鐵道　浦賀横須賀間五哩の地に私設鐵道を布設する計畫ありとハ曾て聞く處あるが彌々發起人中の協議も整ひしかハ同地方の紳商數名より此程其筋に出願したるよし扨右の資本金ハ今を距ること十九年前同地の有志者が組織に係る有益社（貸金所）に年々收入したる利益稅金を目論見しもの

〇日本茶の强敵　の方法を實地に調査する決心なる由なるに滯在して支那及印度の一の器械を以て繰り出す大に我國よりの傳に昨年の如きを見るを得ざりして實地調査中あるべからざる一事なり

〇十八萬圓の不足　國にて最初の計畫坂より和州櫻井まで金として備へ置くべきたるの今日となり圓の不足を生じたる其處分方を株主へ

〇清國古城の修築　路に入り馬場水齊間道に在る一城にして蹟を設き以て其事の事は陝甘總督齊都統恭鎮氏等の處とおり既に甘縣知縣劉浚清氏は駐在せし巡檢官隊古城は隨分將來日より八年前の改訂隨ひ古城外四箇所の配置しあるよし北

〇沃度加里の高低　ありて忽ち通常の半に復したりしが此際場の模樣を探り居た品を買ひ込み大に利

〇索引器械　過日の察署長丹羽五郎氏も据附くるよしに着手したりと

〇北秋俱樂部　秋田する政社を組織して局部の小團結ハ不便たるよし

〇熊本の政談演說會　度東京より同地方に重章氏と謀り去月二約政談演說會を開き二千餘名の多きハ遠云ふの外おく各辨士博する中に同地に於て山子氏ハ一書一憂と題し次に國友重章氏ハ間餘も演說したる由

〇關西大會　本年五月會の硯關西より出席